

総合理学研究所「年報 96」の刊行に当たって

総合理学研究所長 杉谷嘉則

総合理学研究所の「年報 96」が刊行の運びとなりました。昨年以来の大学全体に関わる諸重要問題のため、予算申請の段階から例年より遅れ気味となり、しわ寄せで年報の刊行もとうとう夏休み直前になってしまいました。が、ともかくも刊行に至ったわけで、所員一同これを慶びたいと存じます。

さて「年報 96」中には、96年度分についての事業報告、すなわち共同研究の成果報告、講習会などの広報活動、その他が記載されています。

研究所の目的が、「共同研究の推進」と「広報活動」にあることはご承知の通りであります。ここで研究所が推進する共同研究とは、学科内あるいは学科間にまたがる形で複数の研究者がグループを組み、必要によっては学外あるいは海外からの研究者をも混えて、より広範のシステムで特定のテーマの研究を進めるものであります。従ってテーマも個々の研究者が扱うようなものより、やや広域的、境界領域的なものになります。

現在のところ、共同研究推進の大きな柱として、

- (1) 海洋資源活用、 (2) 環境保全

の二つを掲げています。これらが研究所の当面のメインテーマであり、なるべくこれに沿ったかたちで共同研究を進めようとしています。

一方、研究所のもう一つ別の目的として、広報活動があり、これは研究所が学内と学外の学術交流の接点として機能しようとするものであります。具体的には、講演会、講習会、あるいはフォーラムといった各種の行事を開催して、学内においては研究者間の知的交流、そして対外的には大学と学外との交流をはかり、さらには大学から地域に向けて知的サービスを行うという役割です。この場合の地域としては、平塚市、神奈川県、そして首都圏などを想定しています。また対象とする方々は、市や県下の住民、中・高・大学の教員、さらに首都圏の民間および公共

研究機関の研究者、等々であります。

これまでもいろいろなテーマで講習会やセミナーを開催して参りましたが、

(i) 包装フォーラム

(ii) 機器分析講習会

(iii) 平塚シンポジウム（化学科と共催）

などが定例的に開かれるようになっていきます。講師は本学教員や、全国の大学・研究機関の研究者などです。

これらの活動報告が本年報にまとめられています。ご覧いただき、ご意見等いただければ幸いです。総合理学研究所の発展のためにも、皆様方の積極的なご支援、ご協力をお願い申し上げます。